



地域経済季報

(令和5年1~3月期)

総評 今期は、1月は新型コロナウイルス感染症第8波の影響が続いたが、2月以降は感染者数が落ち着き、観光関連業では、全国旅行支援などをきっかけに観光客の増加が見られた。コロナ禍による需要の低迷が続いていたが、個人消費に上向きの動きが見られ、コロナ禍前には届かないものの前年同期比増になる事業所が増加した。飲食業では、歓送迎会などの夜の飲食需要も高まっており、徐々に改善の兆しがある。小売業においては、観光客による特産品・土産物の売上が戻りつつあるが、スーパーなどでは、内食需要が落ち着いてきている。家電では、半導体・部品不足は未だあるものの、補助金による特需もあり一部では好調に推移している。建設業では、建設資材価格の高騰や担い手不足が深刻であり、労働力確保も課題となっている。全業種に共通して、原材料・エネルギー価格の高騰により収益に影響を大きく受けている。来期は、新型コロナウイルス感染症の2類から5類への移行が決まり、各業界では積極的に営業活動ができる状況となる。観光関連業では、全国旅行支援の延長や大型連休があることから観光客の増加による売上回復に期待。建設関係では、慢性的な人手不足が続いているが、年度繰越工事とした早期工事等の公共事業量の増加に期待。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰による影響は今後も続くことが予想され、引き続き収益の確保にも懸念している。支援施策の拡充が期待される。

		前期状況 (10~12月期)	今期状況 (1~3月期)	来期見通し (4~6月期)	調査事業所のコメント
建設業		↗	→	→	今期は、官・民間需要ともに横ばいに推移した。他方で生コン等の建設資材価格の高止まりや、担い手不足の問題については深刻である。とりわけ即戦力となる人材については特に深刻であり、年間を通じて災害復旧工事に人手が集中する現状や、完成時期が年度末に集中することもあり、労働力確保に困難をきたしている。来期は、閑散期となるが、年度繰越工事とした早期工事等の公共事業量の増加に期待している。
		→	→	→	今期は、部品不足の一部改善、原油価格の下落傾向が見られたものの、材料や電気料金などのエネルギー価格は依然として高値水準にあり、下請企業は全てを価格転嫁できないことから、収益が悪化している。来期は、電気料金の値上げが不透明であり、国による施策に期待したい。また、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行が決まったことから、積極的な営業活動を行いたい。
卸売業		→	→	→	今期は、商品の供給は回復してきたが電気代の高騰を受けて官・民間需要ともに振るわず、全般的に需要が悪い状況。来期は、旅行などの人の動きも回復してきているが、その需要を支える人手不足や、人件費の高騰もあり、引き続き厳しい状況が続くものと予想。
小売業	衣料品	→	→	→	今期は、特に前半、物価上昇等消費マインドの落ち込みや悪天候の影響等により売上の低迷が続いた。商品への物価上昇の影響は、直ぐには出にくい業界ではあるが、質を変えて値引きをするメーカーも出てきている。来期は、新生活の開始時期であり、好景氣を期待したいが依然として厳しい状況が続くものと予想。
	家電	↗	→	→	今期は、ウクライナ情勢などによる石炭や液化天然ガスの輸入価格高騰の影響で、1月の電気代がおおよそ2倍に跳ね上がった。その結果、家計の水道光熱費割合が増加した。来期は、鳥根県のエネルギーコスト削減対策補助金を利用した、エアコンや照明器具等の買換え需要に期待。
	自動車	↗	↗	→	今期は、半導体不足や部品納品の遅れによる納期遅延の傾向が依然続いているものの、一部で短縮傾向もみられはじめている。受注は依然好調で、供給力の回復に伴い登録や届け出台数が増加しており、新車販売台数では経じて前年同期比増加。来期は、半導体不足や部品の納品遅れの影響は依然続くものと思われるが、税制優遇や補助金制度などを背景に、環境に配慮した低燃費車やEV車への買い替えに引き続き期待。
	総合量販店	→	→	→	今期は、初売りは過剰在庫を持たない店舗が主流となり福袋の売行きは芳しくなかった。また、1月末の降雪により客足は一時止まったが恒例の催事や新型コロナウイルスも一定の落ち着きを見せたことから来店客数は前比で増加。特に婦人・紳士服共にビジネス利用での売上が回復した。飲食部門は好調であったが、食料品の度重なる値上げは徐々に消費意欲の減退を招いている。来期は、マスク不要などことで化粧品部門の回復に期待するとともに、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行するため、来店への仕掛け作りが必要である。
サービス業	スーパー	→	→	↘	今期は、新型コロナウイルス感染者数が落ち着き内食の需要減少、相次ぐ各食料品の値上げ、家庭の電気・ガス代の高騰等による節約志向の高まりによる買上点数の減少が目立つ状況。一時的なものではあるが鳥インフルエンザ拡大の影響で卵の供給不足・価格高騰が直近では起こっている。来期は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更になることから、ここの数年高まっていた内食需要に更なる落ち着きが見える可能性もあり、日々変化する消費者マインドに注視する必要がある。
	特産品	↘	→	↗	今期は、新型コロナウイルス感染者数が落ち着き行動制限もなかったことに加え、全国旅行支援の後押しもあり観光客を中心に人流が戻り、土産品・特産品の売上は前年同期に比べ増加した。来期は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更になることから、多くの人流の増加が見込まれることもあり土産品を中心に特産品の売上に期待。
	飲食	↘	→	↗	今期は、降雪による影響が一部見られたものの、飲食を含めた生活様式がコロナ前に戻りつつあり、改善の兆しが見えた。また全国旅行支援の効果もあり観光需要にも支えられた。日による繁閑な日も見られ、コロナ前の売上には届かないものの、コロナ禍で落ち込んだ前年同期比では増となった。来期も、人手不足や原材料高騰などの課題もあるが、観光需要と歓迎会等の団体需要が回復することで、コロナ前の水準にどこまで戻せるかが鍵となる。
運輸・旅客	旅館・ホテル	↗	→	↗	今期は、行動制限がなかったこと、1月10日から再開した全国旅行支援の後押しもあり、2、3月はコロナ前の8割程度宿泊客数が回復した。観光利用が主でビジネス利用は低調であった。来期は、新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、本格的な観光需要の回復期を迎えることから、コロナ前の水準に戻ると予想。大型連休や、全国旅行支援の期間延長の後押しを受け、観光客・宿泊客数増に期待。
	運輸・旅客	↗	↗	→	今期は、旅客運輸においては新型コロナウイルス感染者数が増加した前年同期に比べ、観光客の入込数も回復し、一定の需要があった。また、送別会等宴会の自粛ムードもなく、夜の飲食店利用者の需要も増加しているが、一方で人手不足から稼働数、稼働時間は伸びていない。来期は歓迎会シーズンに大型連休があり需要の増加が期待できる。

※売上の前年同期比について ↗ → ↘ により表しています。